

## 第Ⅱ章 基本計画

### 1. 基本方針の設定

#### 1) 計画テーマ（将来像）の設定

野津田公園は、北部丘陵の一部が多摩ニュータウンや既成市街地に囲まれた場所に立地し、緑豊かな環境と陸上競技場、野球場など貴重なスポーツ施設が内包される特色ある総合公園として市民に親しまれている。

公園計画の基本的な方向性は、このような立地特性や自然環境、現状の施設内容、市民の公園に対する意見に加え、市の総合計画をはじめとする上位関連計画など、多岐に渡る与条件と前章で整理した課題に対応して導くものとする。

以上の前提から、市内最大規模の総合公園にふさわしい環境と施設を備えた公園としての計画テーマ（将来像）を以下のように設定する。

#### ■計画テーマ（将来像）

自然の中で楽しむ総合スポーツパーク

#### 2) 計画目標と整備方針

計画のテーマ（将来像）に基づき、野津田公園の6つの目標を設定し、各目標別に計画の整備方針を設定する。

##### （1）競技スポーツから健康スポーツまで幅広い活動が楽しめる公園づくり

- ホームタウンチームの活動を中心とする様々なスポーツイベントに対応する空間を整備する。
- 地域の子どもやクラブチームなどが、様々なスポーツ活動を楽しむ空間を整備する。
- 個人やグループが様々な健康スポーツを楽しむ空間を整備する。
- 健康維持の基本である、「歩き」が楽しめる散策路を整備する。
- 健常者だけでなく高齢者や障がい者も楽しむための施設整備にも十分配慮する。
- 利用者の健康増進につながる情報や、専門家の指導などが受けられる機能を備える。

##### （2）多様なレクリエーション活動が楽しめ、交流が広がる公園づくり

- 各種のスポーツイベントなどが展開される、観光・レクリエーションの拠点空間を整備する。
- 里山の環境を活かした、散策、自然とのふれあい、バートウォッチングなどが

楽しめる空間を整備する。

- 利用者の集い、飲食・語り・交流などのレクリエーション活動が楽しめる場を整備する。
- 四季折々の花木や草花が楽しめる花の名所づくりを行う。
- ばら広場のより効果的な活用方法を検討し、魅力ある空間を整備する。

### (3) 自然とのふれあい活動が楽しめる公園づくり

- 公園内の自然環境について、目標植生を設定し、多様性のある里山の自然環境を守り・育てる。
- 動物についても目標種を設定し、北部丘陵の生き物ネットワーク形成の拠点にふさわしい自然環境を守り・育てる。
- 北部丘陵や野津田の豊かな自然、文化を紹介する情報発信の機能を持たせる。

### (4) 大規模災害発生時の住民避難や救援活動の拠点機能を備えた公園づくり

- 災害時における避難場所を確保する。
- 災害時における救援部隊の活動スペース及び、ヘリコプターの緊急離着陸場等にも利用できるスペースを確保する。
- 一時的な避難生活にも活用できるスペースを確保する。
- 周辺道路と公園を結ぶ、安全性の高い避難路を整備する。
- 災害時のスムーズな人や物資の移動を考慮した動線を整備する。
- 公園外周部の既存樹林を、緩衝機能を有する樹林として保全する。

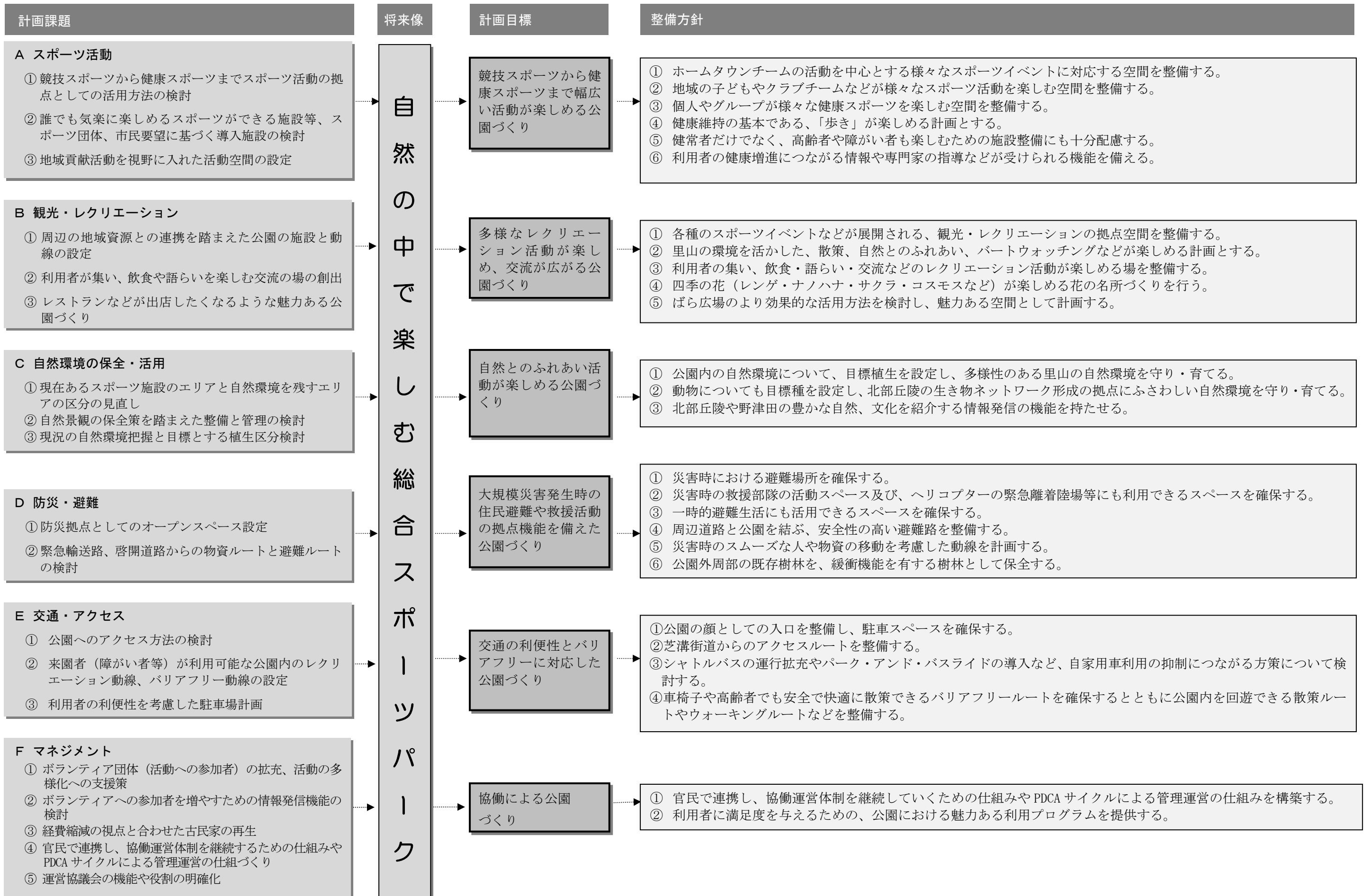
### (5) 交通の利便性とバリアフリーに対応した公園づくり

- 公園の顔としての入口を整備し、駐車スペースや路線バスの進入スペースを確保する。
- 芝溝街道からのアクセスルートを整備して南側からのアクセスの充実を図る。
- シャトルバスの運行拡充やパーク・アンド・バスライドの導入など、自家用車利用の抑制につながる方策について検討する。
- 車椅子や高齢者でも安全で快適に散策できるバリアフリールートを確保するとともに、公園内を回遊できる散策ルートやウォーキングルートなどを整備する。

### (6) 協働による公園づくり

- 官民で連携し、協働運営体制を継続していくための仕組みやPDCAサイクルによる管理運営の仕組みを構築する。
- 利用者の満足度を高めるための、公園における魅力ある利用プログラムを提供する。

■計画の基本的考え方<整備方針設定までの流れ>



## 2. ゾーニング・動線計画

### 1) 空間構成の検討

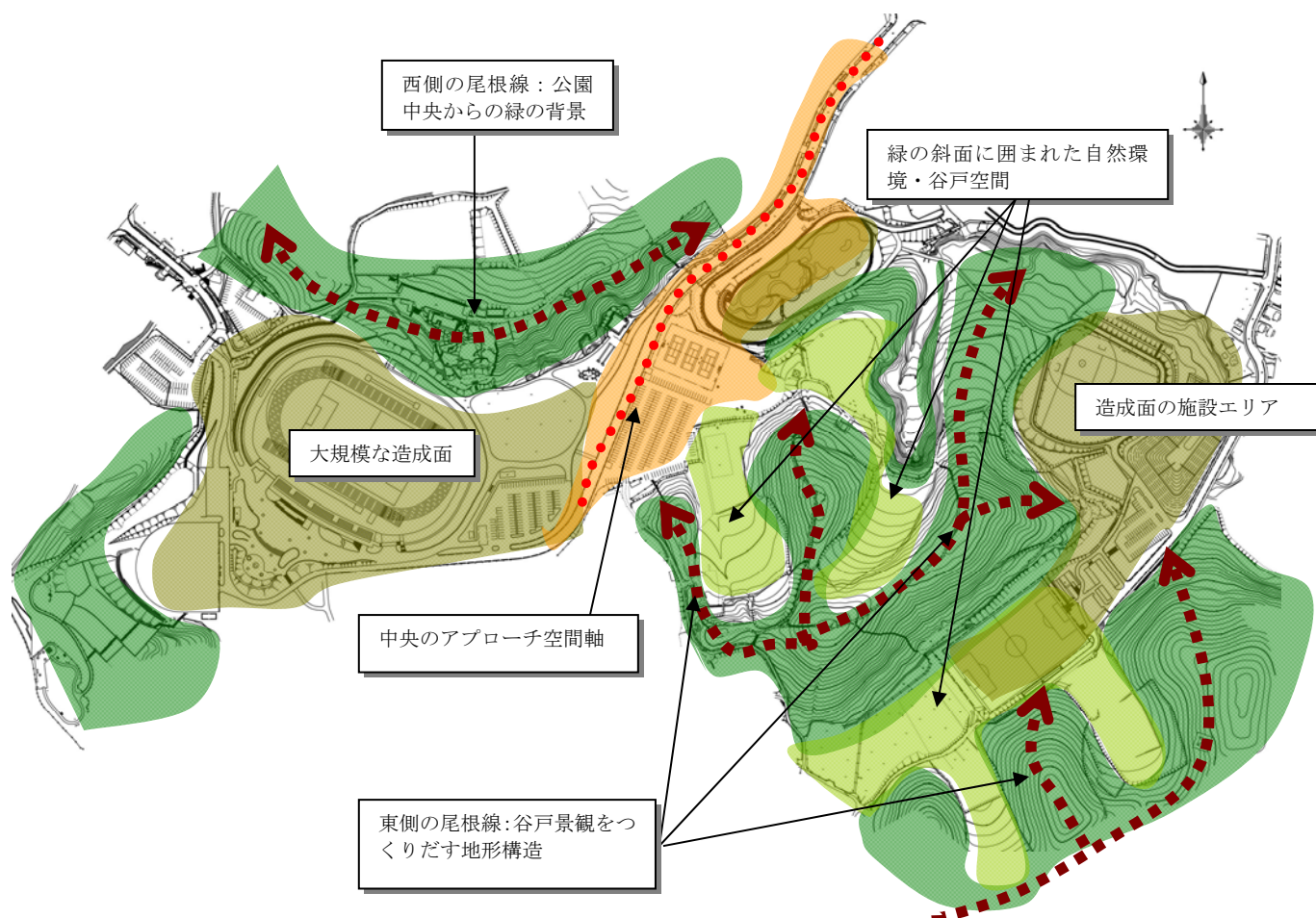
野津田公園の地形から敷地の空間構成をみると、中央のアプローチ道路が公園の中央を通る空間軸となり、東西に自然地形の尾根と谷戸地形が入り組んで野津田公園特有の複雑な空間を構成している。

公園東側は、南北に大きく張り出す3本の尾根とこれに囲まれる3つの谷戸地形で構成され、尾根と谷戸の自然環境が明確で特徴的な自然空間を構成している。

公園西側は区域北側に東西に尾根が連なるが、敷地の大半を占める陸上競技場の造成面が中央に存在するため、東側に比べると自然地形の残存区域は少ない。

公園計画の基本となる土地利用計画（ゾーニング）と動線計画は、この空間構成に基づき、これを活かしたゾーン設定と動線計画を導くものとする。

図 2-1. 野津田公園の空間構成



## 2) ゾーニング計画

野津田公園は進入路の東側と西側で大きな違いが見られる。西側は、陸上競技場等の整備により、地形の大規模な改変が認められるが、東側は尾根と谷戸が入り組んだ変化に富んだ自然地形と豊かな緑が残っている。

ゾーニング計画は、このような野津田公園の特性と前述した計画テーマ（将来像）を踏まえ、それぞれの空間構成を活かした4つのゾーンを設定し、野津田公園の土地利用計画を方向づけるものとする。

### (1) パークセンターゾーン

#### ■現況特性

野津田公園の中央部は、桜並木が続く進入路の突き当たりに、芝生広場や駐車場の広い平坦面が広がるとともに、駐車場の東側には樹林の緑に囲まれた比較的広い芝生の緩斜面が連続している。

#### ■ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、この地形的特性と公園のメインアプローチを受ける「入口」として、また公園の「中心」として、来園者のための案内・交流・休憩機能と家族連れや日常利用のための多様なレクリエーション機能および公園全体の管理機能を集約する「パークセンターゾーン」として位置づける。

#### ■ゾーンの考え方

ゾーンを構成する空間は、既存の桜並木に導かれて入る玄関口としての広い「もてなし」の空間を設定し、野津田公園の緑を背景に空間を魅力づける花や家族が手軽に楽しめる施設で迎えるものとする。また、ゾーン南側に隣接する畑地は、その平坦な広がり公園の貴重な広場空間となるため、公園区域に取り込んで多目的に利用できる広場とする。

### (2) 競技スポーツゾーン

#### ■現況特性

公園の西側は、第三種公認陸上競技場を中心に中央駐車場や芝生広場、多目的広場などが整備され、空間的にはまとまった施設とその周りの斜面緑地で構成されている。またその北側には、ばら園のある広い谷戸が隣接する。

#### ■ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、第三種公認陸上競技場を中心に、既存の広場や施設を活かした「する、観る、支える」スポーツの拠点ゾーンとして位置づける。

#### ■ゾーンの考え方

ゾーン構成は、陸上競技場に隣接する多目的広場や芝生広場の造成平坦面に、体育館やイベント広場を、ばら園とその東側に続く広い緩斜面には、テニスコー

ト・多目的グラウンドなどの大規模な競技施設の整備を図り、パークセンターゾーンと連携して多くの観客や利用者を迎え入れる空間とする。

### (3) レクリエーションスポーツゾーン

#### ■現況特性

公園の東側は、既設の野球場や上の原グラウンドが緑の斜面に囲まれた谷戸地形の中に整備されており、その周りは「みずき広場」などの草地の緩斜面や比較的樹林密度の低い森が点在する。

#### ■ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、これらの既存施設や自然環境を活かしながら、自然の中で楽しめる日常的なスポーツの場として位置づける。

#### ■ゾーンの考え方

ゾーンを構成する空間と導入施設は、既存の野球場やグラウンドの他は、自然地形や樹林、草地を活かした規模の小さな施設やウォーキングなどのコースで構成し、既存の自然と一体となる利用空間を目指す。

### (4) 人と緑のふれあいゾーン

#### ■現況特性

上の原グラウンドの谷戸部とその両側の斜面は、草地や雑木林の多様な自然が展開する里山的な環境が残る。

#### ■ゾーンの位置づけ

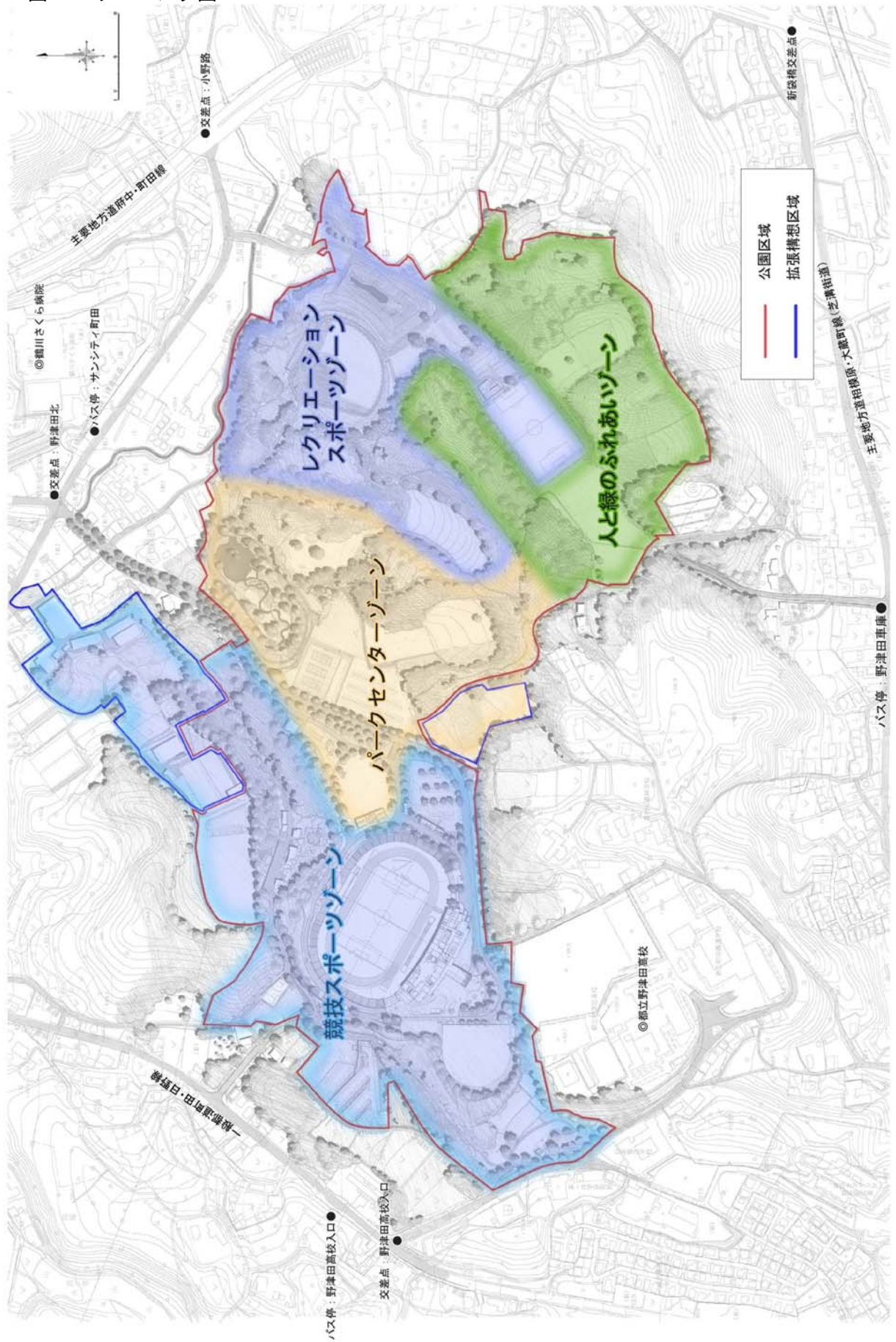
上の原はらっぱや雑木林の斜面は、自然観察や散策・子どもの自然遊びなど市民が公園の自然にふれあえる拠点ゾーンとして位置づける。

#### ■ゾーンの考え方

ゾーンの導入施設は、市民の利用や活動のための最小限の管理・便益施設にとどめ、既存の散策路や子どもの遊び場として有効活用を図るものとする。



図 2-2. ゾーニング図



### 3) 動線計画

野津田公園は、桜並木のメインアプローチから陸上競技場に至る広幅員の園路のほか、園内の主要施設を連絡する園路、尾根沿いや谷戸の広場を巡る散策路など既設の園路が多く整備されている。

動線計画は、この既設園路を活かしながら、ゾーニング計画で設定した主要施設、広場空間を効果的に連絡する以下の動線を設定する。

#### (1) 幹線園路

- ゾーン間の主要施設を連絡する幅員 3m以上の園路とし、管理車両の通行と、車椅子の通行が可能なバリアフリールートの基本とする。
- 中央部のメインアプローチからセンターゾーンの平坦面と陸上競技場にアクセスする既存園路を軸に、西側は陸上競技場周りを迂回してばら園に至るルートを、東側は進入路から野球場を経て、上の原に至るルートを幹線園路として位置づける。

#### (2) 支線園路

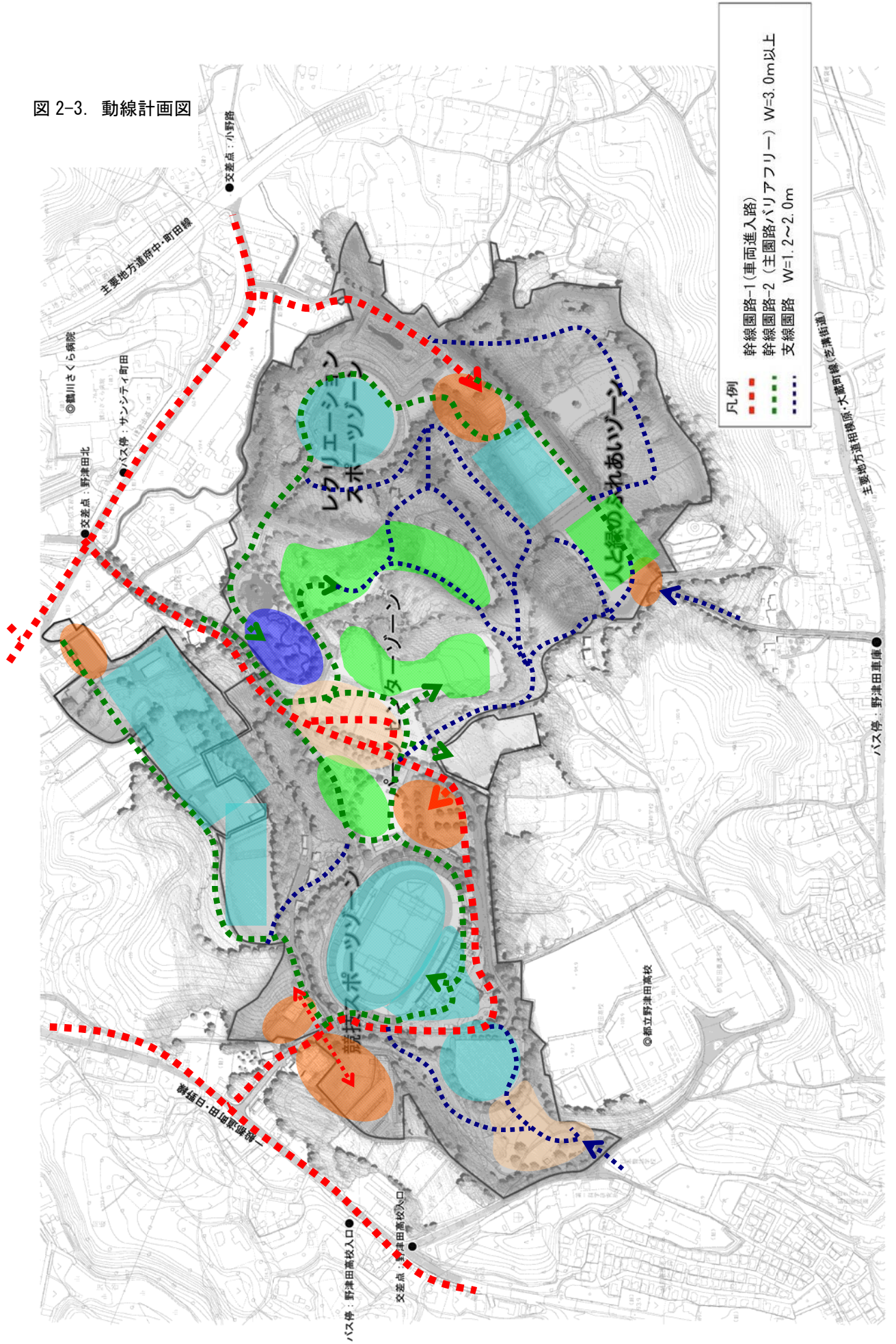
- 支線園路は、ゾーン間を連絡する動線（幹線）から各施設を連絡する動線として、さらには起伏のある尾根沿いや谷戸を巡る既設の散策路等を位置づけ、幅員は 2m～1.2m程度とし、散策路頭は自然景観に調和する自然素材の舗装を基本とする。

#### (3) アクセスルートと周辺交通計画

- 野津田公園のアクセスルートは、野津田公園北交差点から分岐する桜並木がメインルートとなり、これに加えて小野路交差点から上の原にアクセスするルートと公園西側の一般都道町田・日野線からアクセスする3つのルートがある。
- Jリーグ試合時など、大規模イベント時の利用者の集中を考慮すると、周辺交通への影響に配慮した交通アクセス計画が必要である。
- 本計画では、後述の駐車場計画も含めて野津田公園へアクセスする車両などの分散化を図り、特にイベント時には、桜並木のルートは一般車の進入を規制して路線バス専用のアクセスルートとし、一般車は西側都道から西および中央駐車場へアクセスするルートと、小野路交差点側から東駐車場へアクセスするルートに分散させるものとする。
- なお、公園南側の野津田車庫前からのアクセスや野津田高校側からのアクセスは、現時点では特に設定されていないが、上記3ルートへの集中をさらに分散させる意味では、路線バス・シャトルバスなどの利用拡大に伴うアクセスルートの検討も重要である。



図 2-3. 動線計画図



### 3. 公園利用者数の設定

#### 1) 公園利用者数の予測

野津田公園の公園利用者数の予測は、都市公園の利用者数（全国平均データ）からの算出と野津田公園の対象エリアの適正利用密度からの算出を行い、双方の結果から設定する。

##### (1) 全国平均データからの算出

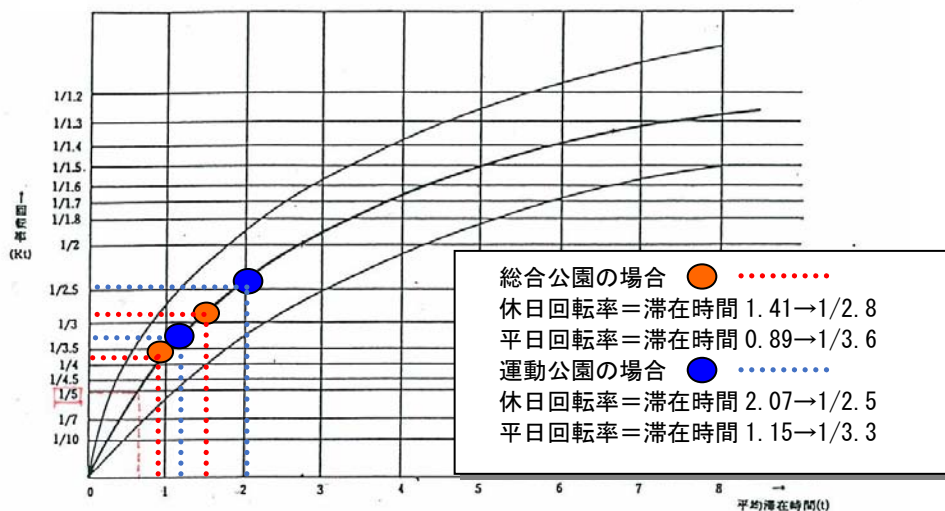
野津田公園の平均入園者数は「全国都市公園利用実態調査（平成 19 年度）国土交通省、財団法人 公園緑地管理財団」の結果より、総合公園及び運動公園の平均利用可能面積（ha）当たりの利用者数から算定する。

・利用可能面積：公園総面積約 40.0ha のうち、水面や立入り不可の樹林地等を除いた面積約 15.0ha

表 2-1

		街区	近隣	地区	運動	総合	広域	国営
平均利用可能面積	ha/ヶ所	0.286	1.392	3.474	19.924	19.449	45.181	77.084
平均入園者数	休日 人	218	722	1,480	4,882	3,404	4,964	9,780
	平日 人	224	609	1,068	2,639	2,316	2,382	2,898
haあたり入園者数	休日 人/ha	761	519	426	245	175	110	127
	平日 人/ha	782	438	308	132	119	53	38
平均在園時間※1	時間	0.86	1.07	1.29	2.21	1.61	2.00	2.34
平均在園時間※2	休日 時間	1.01	0.72	1.03	2.07	1.41	1.89	2.64
	平日 時間	0.53	0.59	0.75	1.15	0.89	1.67	1.96
平均到達時間※3	分	12.3	15.5	20.2	26.5	28.5	39.7	61.0
80%到達時間※4	分	14.9	22.4	28.1	42.6	43.6	63.9	103.0
平均来園頻度※5	回/月	10.3	9.7	8.9	6.4	5.8	4.4	0.9
リピーター率	%	92.9	93.6	90.8	93.5	91.0	87.4	68.6
平均誘致圏人口	人	2,998	6,757	20,122	-	-	-	-
平均誘致圏老年人口	人	624	1,497	4,427	-	-	-	-
公園利用率	休日 %	7.5	10.7	6.5	-	-	-	-
	平日 %	7.5	9.4	5.2	-	-	-	-
老年公園利用率	休日 %	4.8	8.1	4.5	-	-	-	-
	平日 %	5.5	8.3	4.4	-	-	-	-
徒歩・自転車利用率	%	78.5	69.8	57.9	37.8	36.5	21.0	8.8
自転車利用率	%	20.9	22.0	16.7	14.5	12.8	8.7	5.3

図 2-4  
日入込量における滞留時間と回転率



調査結果一覧から、休日と平日 1 日の平均利用者数を算出すると以下のとおりである。

・総合公園の場合

■休日=2,625人 (175人/ha×15.0ha)

■平日=1,785人 (119人/ha×15.0ha)

・運動公園の場合

■休日=3,675人 (245人/ha×15.0ha)

■平日=1,980人 (132人/ha×15.0ha)

また、基準日における最大時利用者数（同時滞在者数）は、上記利用者数（平均日）に平均在園時間を考慮して、1日の利用回転率を乗じて算出する。

・総合公園の場合

■休日：平均在園時間=1.41時間、回転率=1/2.8より

休日の最大時利用者数（同時滞在者数）=2,625×1/2.8=937人

■平日：平均在園時間=0.89時間、回転率=1/3.6

平日の最大時利用者数（同時滞在者数）=1,785×1/3.6=495人

・運動公園の場合

■休日：平均在園時間=2.07時間、回転率=1/2.5より

休日の最大時利用者数（同時滞在者数）=3,675×1/2.5=1470人

■平日：平均在園時間=1.15時間、回転率=1/3.3

平日の最大時利用者数（同時滞在者数）=1,980×1/3.3=600人

以上の考察から、野津田公園の最大時利用者数（基準日）は、利用者の多い休日では937人～1470人である。この数値はあくまで全国の都市公園（総合公園、運動公園）の利用実態データに基づくものであるため、以下に野津田公園の計画に基づく適正利用密度からの算出を行い、利用者数を確認する。

## (2) 野津田公園の適正利用密度からの算出

野津田公園は、総合公園ではあるが陸上競技場やサッカー場、野球場を有し、集客性の高い施設を有する公園である。そこで、スポーツ施設についてはその収容力を、また広場等のレクリエーション利用空間についてはその適正利用密度から最大時の利用者数を算出する。

### ■計画スポーツ施設の利用者数（収容力）

	Jリーグ時	通常時	備 考
陸上競技場	10,000 人	80 人	試合時:スタンド収容人数 通常時:陸上競技練習
多目的グラウンド	60 人	60 人	サッカー15人/チーム×4チーム
テニスコート	120 人	120 人	5人/組×2組/面×12面
壁打ちテニス	10 人	10 人	3面×3~4人
野球場	80 人	80 人	20人/チーム×4チーム
<b>計</b>	<b>10,270 人</b>	<b>350 人</b>	

スポーツ施設のうち陸上競技場は、Jリーグの試合時に大幅な利用者増が見込まれるため、スポーツ施設利用者数は以下の2つのパターンが想定される。

- ① Jリーグ時 : 10,270 人  
 ② 試合以外の日（通常時）: 350 人

### ■広場等のレクリエーション空間

- ① 入口広場（ウエルカムガーデン）・芝生広場・遊具広場等の平坦な広場＝計 58,200 m<sup>2</sup>のうち、30%が施設や植栽地等の有する面積とすると、利用可能面積は約 41,000 m<sup>2</sup>

適正利用密度を 10 m<sup>2</sup>/人（自然公園園地適正密度：「自然公園施設の計量計画」糸賀 1969 の密度から 20 m<sup>2</sup>/人の 2 倍の密度）に想定すると

$$41,000 \text{ m}^2 \text{ (利用面積)} \div 10 \text{ m}^2/\text{人} \approx 4,100 \text{ 人}$$

- ② 緩斜面のピクニック広場など＝21,200 m<sup>2</sup>のうち、20%が植栽地等の有する面積とすると、利用可能面積は約 17,000 m<sup>2</sup>

適正利用密度を 30 m<sup>2</sup>/人（平坦地の 2/3 倍）に想定すると

$$17,000 \text{ m}^2 \text{ (利用面積)} \div 30 \text{ m}^2/\text{人} \approx 570 \text{ 人}$$

- ③ ススキ草地のような丘陵地斜面＝10,000 m<sup>2</sup>のうち、90%が急な斜面地等で利用が困難な面積とすると、利用可能面積は約 1,000 m<sup>2</sup>

適正利用密度は、園路等の線的使用に限定して 50 m<sup>2</sup>/人に想定すると

$$1,000 \text{ m}^2 \text{ (利用面積=1/10)} \div 50 \text{ m}^2/\text{人} \approx 20 \text{ 人}$$



- ④園路途中の小広場、尾根上の平坦面=3,350 m<sup>2</sup>のうち、50%が樹林地等の有する面積とすると、利用可能面積は約 17,00 m<sup>2</sup>、  
適正利用密度を 20 m<sup>2</sup>/人に想定すると

$$1,700 \text{ m}^2 \div 20 \text{ m}^2/\text{人} \doteq 85 \text{ 人}$$

(ア) ~ (エ) 合計=4,700 人

これにスポーツ施設の 10,270 人および 350 人を加えると J リーグ時:約 15,000 人と通常時:約 5,000 人の二つのパターンになる。

### (3) 野津田公園の利用者数の想定

以上の考察から、利用実態調査データの最大値:1,470 人と適正利用密度の 5,000 人(15,000 人)には大きな差がある。

利用実態調査データは、年間の休日の平均値であり、適正利用密度は公園内すべての空間が利用される年間のピーク時期と考えると、計画基準日(年間ピークの 3~5 番目に利用者が多い日)の利用者数は 2 つの値の中間値で設定すべきと考える。

#### ■計画基準日の最大時利用者数

$$\begin{aligned} & (\text{利用実態調査データによる利用者数} + \text{適正利用密度からの利用者数}) \div 2 \\ & = (1,470 + 5,000 \text{ 人}) \div 2 \doteq \text{約 } 3,200 \text{ 人} \end{aligned}$$

※なお、J リーグの試合開催時の約 15,000 人は、特殊要因として別途計上する。

## 2) 駐車場必要台数(参考)

上記 3,200 人の規模で公園の駐車場必要台数を試算すると以下のとおりである。

駐車場の必要台数は、計画基準日の最大時利用者数に自動車利用率と 1 台当たりの乗用人数から算出する。

$$\text{必要台数} = \text{最大時利用者数} \times \text{利用率} (\%) \div 3.5 \text{ 人/台}$$

$$\text{自動車利用率} = 50.3 \sim 50.6\% \text{ (全国利用実態調査より)}$$

$$\begin{aligned} & 3,200 \text{ 人} \times 0.506 \div 3.5 \text{ 人} = 462 \text{ 台} \\ & (\text{J リーグ試合開催時}) 15,000 \text{ 人} \times 0.506 \div 3.5 \text{ 人} = 2,168 \text{ 台} \end{aligned}$$

公園の立地特性を考慮すると、路線バスや徒歩による利用率が低いため自動車利用率は 60%以上の数値となることが想定される。

そこで J リーグ試合以外の場合は、自動車利用率を 60%に設定すると駐車場の必要台数は 550 台程度となる。

$$3,200 \text{ 人} \times 0.60 \div 3.5 \text{ 人} \doteq 550 \text{ 台}$$



## 4. 導入施設の検討と設定

### 1) 主要導入施設の計画方針

計画にあたっては、公園の現況施設の整備状況と周辺区域を含めた地形・植生などの自然特性を考慮しながら、自然環境や空間構成に整合した施設の選定と具体的な配置計画を行うものとする。

また主要導入施設の配置は、ゾーニング計画で設定した空間の考え方を踏まえ、各ゾーンの空間構成にふさわしい施設内容、構成とする。以下に各ゾーンにおける主要施設整備の考え方を示す。

#### (1) パークセンターゾーン

公園の玄関口として、進入路の突き当たりに大型の建築物（パークセンター）でランドマークをつくり利用者の案内・管理運営の拠点とする他、周辺部は季節の花で彩る庭空間で公園利用者の集合離散場所としての十分な広さを確保する。

子どもの遊び場は、玄関口からその存在が目立つよう、大型の特徴ある遊具や山の斜面から見え隠れするローラー滑り台などで自然の中の遊び場を創出する他、大人から子どもまで家族で楽しめる多様な遊びの要素・魅力を提供する。

■主要施設：パークセンター（管理棟＋レストハウス）、ウエルカムガーデン・ばら園、イベント広場、大型遊具、ピクニック広場、ローラースケート場など

#### (2) 競技スポーツゾーン

陸上競技場の周りには、これを補完してサブグラウンド的な機能を有するスポーツコートや室内運動拠点となる体育館を追加整備する。陸上競技場北側の谷戸部には公式試合も可能なテニスコート（12面）とサッカー等の多目的グラウンドを整備し、夜間照明の設置など利用時間の拡大も可能な仕様とする。

■主要施設：陸上競技場（既設）、体育館（中規模）、多目的スポーツコート、テニスコート（12面）、多目的グラウンド（サッカー場）、壁打ちテニスコートなど

#### (3) レクリエーションスポーツゾーン

公園東側の野球場、上の原グラウンド等既存施設の充実のほか、弓道・アーチェリーは公式試合用のコースと施設（35m×35m屋根付運動場）の導入を図る。ゾーンの大半を占める自然地形と樹林地はこれを保全活用しながらルート型のレクリエーションスポーツ施設（マレットゴルフ、フィールドアーチェリー等）を整備する。

■主要施設：上の原グラウンド（既設改修）、野球場（既設改修）、マレットゴルフコース、フィールドアーチェリーコース、屋根付運動場、弓道兼アーチェリー場、ウォーキングコースなど

#### (4) 人と緑のふれあいゾーン

上の原はらっぱや雑木林、草地の丘陵地など既存の自然空間での活動や散策などが気軽にできるよう、歩きやすい散策路や解説板などのサインの充実を図るとともに、ゾーンの南側エントランス部分に自然活動の拠点となるネイチャーセンターを整備する。

■主要施設：上の原はらっぱ（既存）、既存樹林内散策路・観察林（東屋、解説版、観察路など）、子ども自然遊び場、転回広場、ネイチャーセンター（自然活動拠点、休憩施設、管理施設など）

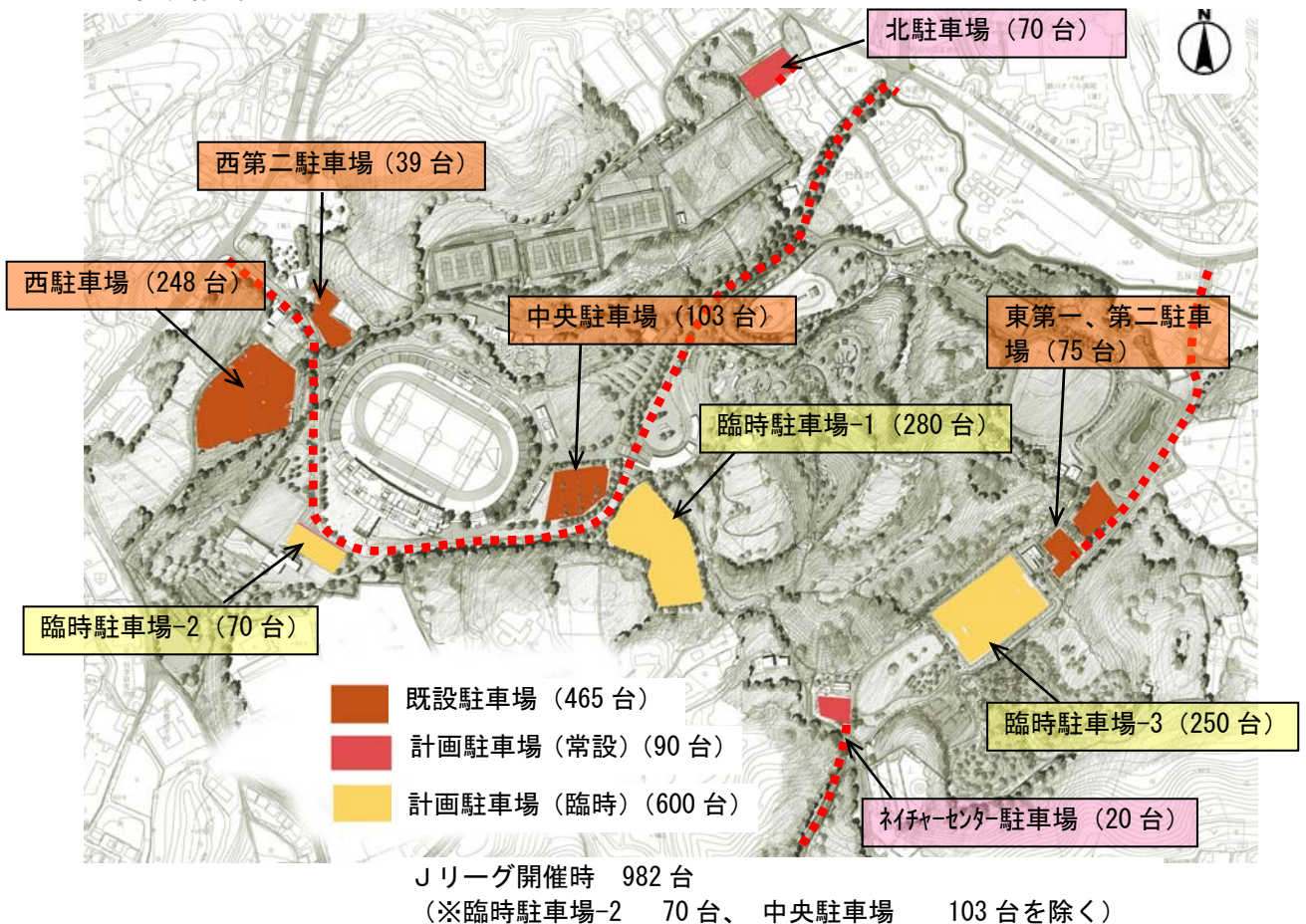
#### 2) 駐車場計画

野津田公園の駐車場は、前述の必要台数の算定に基づき常設と臨時駐車場に分けて計画する。（常設駐車場で555台、臨時駐車場で600台、計1155台）

常設駐車場は、既設駐車場をそのまま存続するものと、拡張区域にスポーツ施設を導入する北入口部に1箇所、ネイチャーセンターを整備する南側に1箇所、計2箇所新設する。

既設駐車場は中央第二駐車場区域がパークセンターゾーンとして整備することにより、現況より少ない台数となるが、中央拡張部に約280台収容可能な多目的広場を計画していることから、Jリーグの試合等イベント開催時に多くの来園者が見込まれる時は、臨時駐車場を開放して受け入れるものとする。

図 2-5. 駐車場配置計画図



3) 導入施設の規模と整備計画の概要

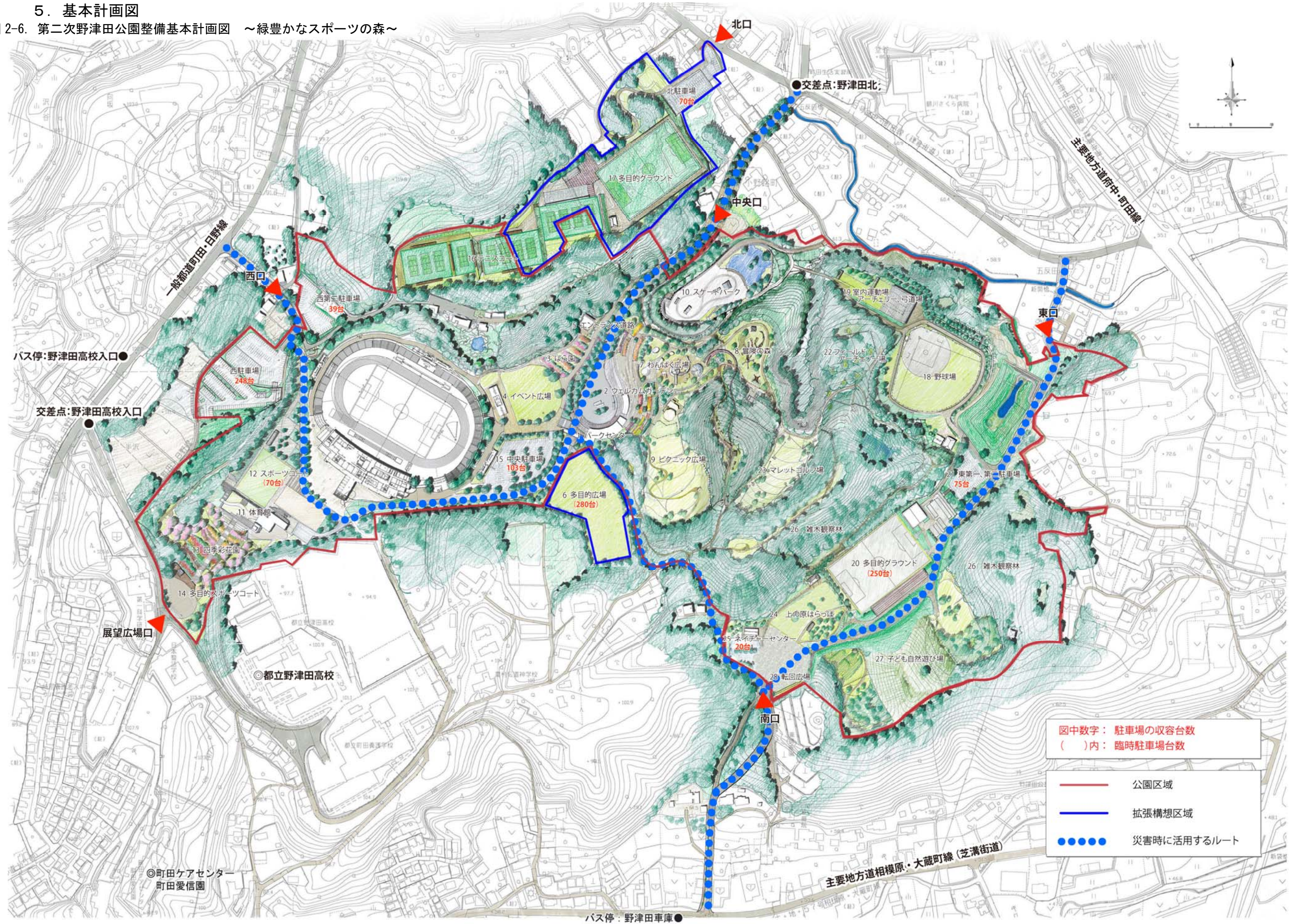
ゾーン名	主要施設	規模	単位	計画概要	備考
パークセンターゾーン	1. パークセンター	1,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野津田公園のメイン入口正面に位置するインフォメーション・管理・交流機能を有する施設。公園利用者への案内や公園を紹介するギャラリー・研修室などの他、カフェや売店・休憩コーナーを併設する。</li> <li>屋上は、四季折々の花を楽しむ「花のガーデン」とし、イベント広場とブリッジで連絡する。</li> </ul>	
	2. ウェルカムガーデン (ばら園)	10,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パークセンターとバスロータリー周辺に広がる公園の入口広場。広場内とその周辺には、ばら広場から移設したばら園が空間の流れに沿って帯状に展開し、ばらの香りと彩りが公園利用者を迎える。</li> </ul>	ばら園面積 (ウェルカムガーデンのばら園+ばら園) = 3,800 m <sup>2</sup>
	3. ばら園	1,400	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>村野常右衛門生家の前庭として、ウェルカムガーデンのばらを提供するばらの育成園を整備する。</li> <li>既存のばら広場と同規模の株数を本ばら園とウェルカムガーデンに集約させて、来園者が最初に目につくとともに、ダイナミックな花空間を印象づけるものとする。</li> </ul>	
	4. イベント広場	4,300	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設の芝生広場を存続させて、芝生のイベント広場として位置づける。通常はばら園に面した休憩広場として利用するが、陸上競技場やJリーグの試合時には観客のエントランス広場や関連イベントの場として利用する。</li> </ul>	
	5. エントランス道路	W=20	m	<ul style="list-style-type: none"> <li>桜並木の歩道部を改修し、新しい公園の進入路にふさわしい道空間を整備する。エントランス広場の突き当りは、Jリーグの試合時には、路線バスの乗降場のあるロータリー (連節バス用) とし、一般車両と分離する。</li> </ul>	
	6. 多目的広場	8,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エントランス広場の南側に広がる畑地を公園に取り込み、平坦な地形を活かした多目的広場として整備する。</li> <li>大会時には、臨時駐車場として利用する。</li> </ul>	臨時駐車場-1 : 280 台
	7. わんぱく広場	3,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エントランス広場東側の平場に、複合遊具やふわふわドームなどを配置した子ども達の遊び場を整備する。</li> <li>遊具周辺は、子どもを見守る木陰やベンチ、あずまやなどの休憩施設を配置する。</li> </ul>	複合遊具は既設遊具を移設、増設
	8. 冒険の森	4,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わんぱく広場の東側の緩斜面にはアスレチック遊具や健康運動遊具を、南側の丘陵地の林間には山頂から滑り降りるローラー滑り台などを整備する。わんぱく広場と連携して、家族で体を動かしながら楽しめる場とする。</li> </ul>	
	9. ピクニック広場	11,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わんぱく広場南側の広い谷戸部 (草地) を活用して、バーベキューやピクニックができる広場とする。谷戸の入口部は、小規模のふれあい動物園を整備し、背景の広場とわんぱく広場の中継地とする。</li> </ul>	
	10. スケートパーク	5,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進入路に隣接する雨水調整池の一部は、その窪地状の独立した空間形状を活かしながら、家族で楽しむ、インラインスケート、スケートボード、BMX等のニュースポーツを行える施設を取り入れる。</li> </ul>	
競技スポーツゾーン	11. 体育館	1,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技場西側の多目的広場に、室内競技用の体育館を整備する。規模はバレーボールコート2面、バスケットボール1面がとれる45m×25mのアリーナとする他、これに隣接してシャワー・更衣室のある管理棟を併設する。</li> <li>屋上は、背後の四季彩花園に直接アクセスできる屋上緑化の庭とする。</li> </ul>	管理用駐車場 : 15 台 西駐車場 : 248 台 西第二駐車場 : 39 台
	12. スポーツコート	5,200	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館前は40m×60mの芝生と、25m×60mの舗装のスポーツコートを整備する。</li> <li>芝コートはフットサルやゲートボールなどができる場とし、舗装コートは子どもを中心とした自転車乗り場等とする他、Jリーグの試合時には70台程度の臨時駐車場とする。</li> </ul>	臨時駐車場-2 : 70 台
	13. 四季彩花園	4,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館東側の造成法面に体育館と多目的スポーツコートを結ぶ階段を整備するとともに、北側回遊園路からのスロープをバリアフリーの基準に沿った斜路に改修する。</li> <li>法面上は四季折々の花やかん木を追加し、法面全体に彩りを添える。</li> </ul>	
	14. 多目的スポーツコート	2,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展望広場の利用活性化を図るために、中央の植栽地と園路を一体化した舗装広場に改修する。近隣の学校、事業所等の身近な運動場所としてスリーオンスリーなどができるようにするとともに、路線バスの待機場としての利用も検討する。</li> </ul>	
	15. 中央駐車場	4,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設駐車場の舗装、植栽を改修する。Jリーグ試合時には、イベント広場として活用する。</li> </ul>	中央駐車場 : 103 台
	16. テニスコート	12	面	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況のばら広場とその東側を拡張して、公式試合への対応も可能なテニスコート12面 (内1面はセンターコート) を整備する。付帯施設としては観客席、夜間照明、管理棟、倉庫、壁打ちテニスなどを整備する。</li> <li>規模的には、サッカー場も含めてクラブハウスが必要となるので小野路屋敷を改修して対応する。</li> </ul>	
	17. 多目的グラウンド	8,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テニスコートの東側に上の原グラウンドと同規模のサッカー等のできる人工芝のグラウンドを整備する。</li> <li>付帯施設は、防球ネット・夜間照明・スコアボード・観客席など公式試合への対応も考慮する。</li> </ul>	北駐車場 : 70 台

ゾーン名	主要施設	規模	単位	計画概要	備考
レクリエーションスポーツゾーン	18. 野球場	12,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設野球場を活かし、夜間照明や管理棟を整備して野球場の機能向上を図る。なお、管理棟やトイレは野球場北側に隣接する屋根付運動場の中に併設する。</li> </ul>	
	19. 屋根付運動場、アーチェリー・弓道場	3,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場北側とその周辺に、30m級と90m級のアーチェリー・弓道ができる人工芝コートを整備し、射場を含めた35m四方をテント等の屋根で覆う。</li> <li>屋根付運動場は、雨天時のトレーニングやキャッチボール、フットサルなどの練習にも使用できるものとする。</li> </ul>	屋根付運動場：1,250 m <sup>2</sup>
	20. 多目的グラウンド (臨時駐車場)	8,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の「上の原グラウンド」は、市民のサッカー練習やスポーツ広場として親しまれているため、観客席やクラブハウスを整備しスポーツ環境を充実させる。</li> <li>Jリーグ試合時には、臨時駐車場として機能させることも可能とする。</li> </ul>	臨時駐車場-3：250 台
	21. 東第一駐車場、東第二駐車場	3,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的グラウンドと野球場の間に、約75台収容の駐車場を整備する。一部は既設駐車場を活かしたものとし、東第二駐車場は野球場横の空地に拡張整備する。</li> </ul>	東第一駐車場：50 台 東第二駐車場：25 台
	22. フィールドアーチェリー場	1,260	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場西側緩斜面の疎林内に、林間のフィールドアーチェリーコースを設定する。コースは、競技時に的を仮設的に設置することで対応する。</li> <li>標準コース=12コース×2ラウンド、コース長:10~60m(5m刻み)平均35mとしてコース面積=35m×W3m×12コース=1,260 m<sup>2</sup></li> </ul>	
	23. マレットゴルフ場	1,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場南西側のみずき広場の林縁部に、自然に親しみながら広場周辺をめぐるマレットゴルフコースを設定する。コースは既存地形を活かしながら林縁部を巡るコース設定とし、自然の中で楽しむマレットゴルフ場として位置づける。</li> <li>標準コース：18ホール、コース長：30m、50m、70m(平均50m)としてコース面積=50m×W2m×18ホール=1,800 m<sup>2</sup></li> </ul>	
人と緑のふれあいゾーン	24. 上の原はらっぱ	9,700	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上の原の南側に広がる草地を保全し、ボランティアの活動などさまざまな活動の場とする。</li> </ul>	
	25. ネイチャーセンター (自然館)	150	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑の活動や遊びを通じた自然とのふれあい、市民の交流拠点として、上の原はらっぱの入口にネイチャーセンター(道具の貸し出し、ネイチャーギャラリー、談話室、軽飲食スペース、トイレ等)を置く。</li> <li>ネイチャーセンターは、20台程度の管理・利用者用駐車場を整備し、南口からの利用者の利便性を図る。</li> </ul>	南口駐車場：20 台
	26. 雑木観察林	8,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上の原はらっぱ北側斜面に広がる雑木林は、良好なクヌギ・コナラ林(二次林)を形成しているため、既設散策路を活かして、雑木観察林として保全・育成する。</li> <li>雑木観察林は、林床の整理や古木の間伐、密度調整などの管理作業により、将来にわたって良好な二次林を持続させるとともに、上の原はらっぱと連携する多様な自然環境とこれを利用する活動の場として位置づける。</li> </ul>	
	27. 子ども自然遊び場	16,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が自然を活かして遊べる空間を整備する。</li> </ul>	
	28. 転回広場	2,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型車の転回広場を整備する</li> </ul>	



5. 基本計画図

図 2-6. 第二次野津田公園整備基本計画図 ～緑豊かなスポーツの森～





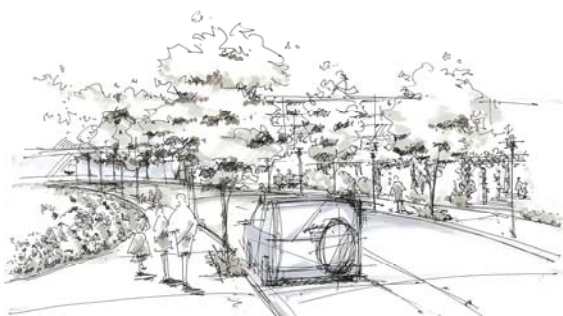
## 6. 個別計画

4つのゾーン毎の空間構成、施設配置、交通アクセス、防災等を具体的に検討し、個別計画として以下にまとめる。

### 1) パークセンターゾーン

#### (1) 空間構成と施設配置

- 野津田公園の中心に位置する公園利用者の入口空間として位置づける。現況の進入路の東側に位置する平坦地（約 11,000 m<sup>2</sup>の規模）が広がるため、この広場空間を活用して進入路のロータリーとウェルカムガーデンを配置する。
- ロータリーは、将来の路線バス（連節バス）の乗降場と回転を想定して半径 20m以上の回転スペースを確保するとともに、ロータリー内はタクシープールとする。
- ウェルカムガーデンは、ロータリーの空間の流れと一体化する特徴的な空間デザインとし、パークセンターの建築もガーデン空間と調和する特徴的なデザインとする。
- ガーデンの東側に続く緩斜面の広場には、地形をそのまま活かした大型遊具やアスレチック遊具のある「わんぱく広場」と「冒険の森」を、その南側にはピクニック広場を配置し、公園入口に家族で楽しむにぎわいのある空間を創出する。
- 西側の陸上競技場前の広場は、イベント機能を有する空間とする。村野常右衛門生家前とロータリー沿いの斜面にばら（ばら園）を配置し、ウェルカムガーデンより一段高い空間へ、花で利用者を導く。
- スケートパークは、周囲から孤立した調整池の底面西側一体に整備し、家族や若者でにぎわう遊びの空間として整備する。整備にあたっては、雨水調整機能を損なわないよう、調整容量や降雨時の滞水を考慮した構造とする。



## (2) 交通アクセス

- 公園へのアクセスは、野津田北交差点より南下する桜並木（進入路）がメインアプローチとなり、通常は一般車の進入と路線バス、タクシーが通行可能とし、一般車はロータリーを経て中央駐車場へとアクセスする。
- イベント開催時は、進入路は路線バスとタクシー専用とし、一般車両は西口や東口から分散してアクセスする。

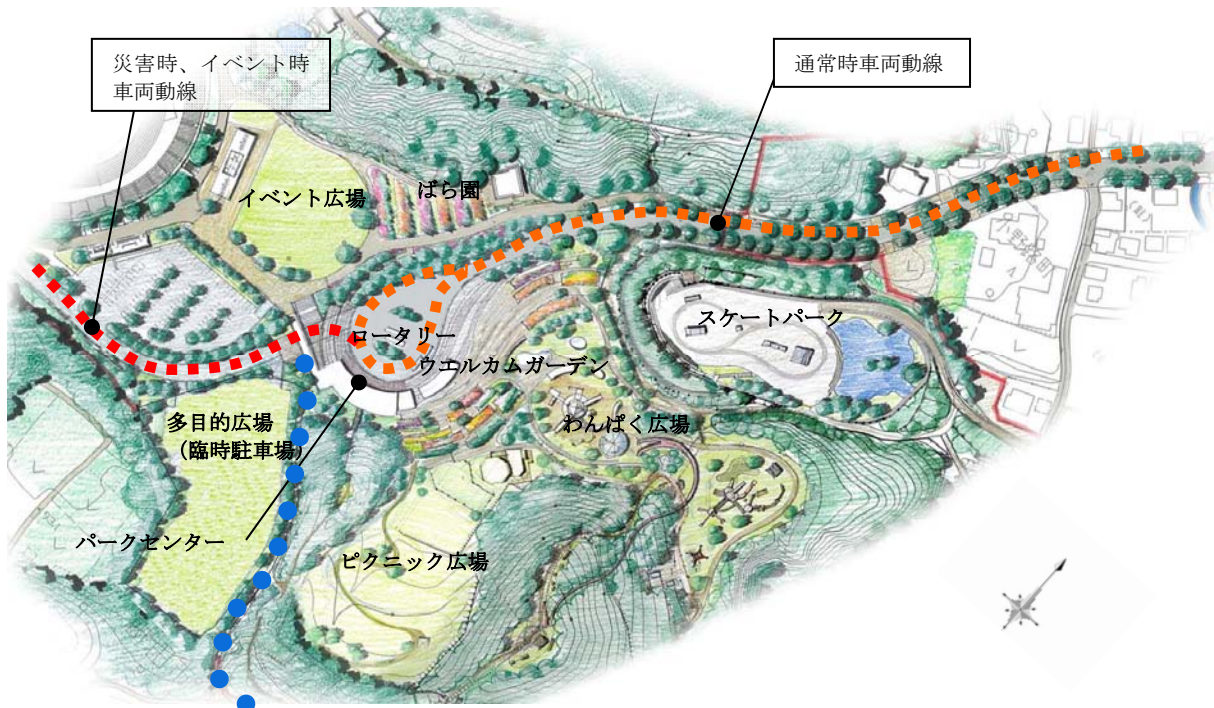
## (3) 防災

- 災害時の野津田公園は、地域住民の避難場所として、また自衛隊等の災害救助支援場所として位置づける。センターゾーンはパークセンターを災害時の活動拠点施設として機能させるほか、ウエルカムガーデン、ロータリー、わんぱく広場一帯を救援車両・機材置き場スペースとして位置づける。



- 人と緑のふれあいゾーンとのアクセス路を充実する。
- ロータリーから陸上競技場を経て西口に至る幹線園路は、都立野津田高校側と通じる一般都道町田・日野線と連絡する園内通路として機能するとともに、多目的広場（臨時駐車場）や陸上競技場スタンド、体育館等と連絡する災害時の重要なルートとなる。
- ゾーンの南側拡張区域に計画する多目的広場は、広い平坦面と周囲に高圧線や照明柱等の障害物がないため、ヘリポートとして活用する。

図 2-7. パークセンター周辺拡大図





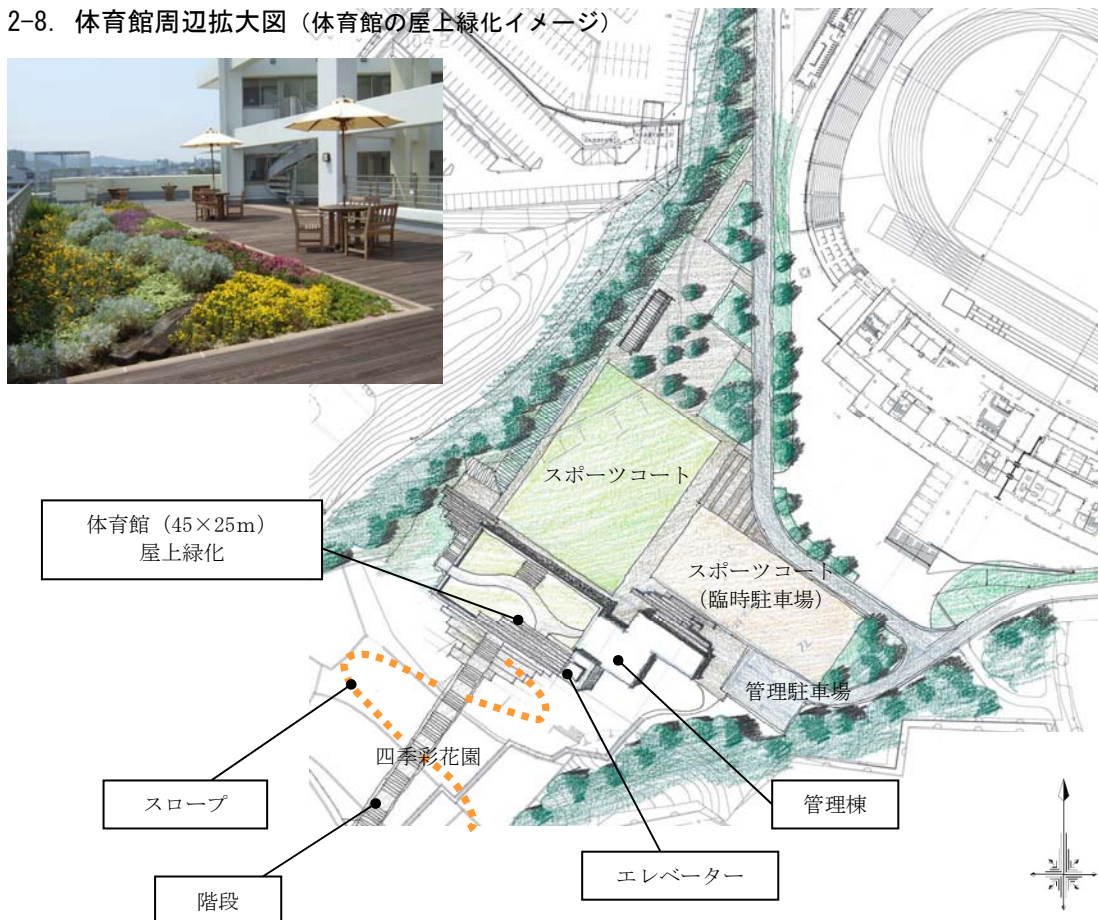
## 2) 競技スポーツゾーン

### (1) 空間構成と施設配置

- 本ゾーンは、競技スポーツ施設とその付帯施設を集約させた空間とする。陸上競技場周辺は現況の空間構成をそのままに、新たに体育館とスポーツコートを設置する。
- 体育館は、陸上競技場南西側の現況の多目的広場内に、背後に「四季彩花園」を抱えるように配置する。体育館は 45m×25m でバレーボールコートが二面取れる大きさとし、隣接して更衣室や利用受付、倉庫等を有する管理棟（約 550 m<sup>2</sup>）を併設する。体育館の屋上は屋上緑化の庭園とし、「四季彩花園」の斜面途中へ屋上から階段とスロープでアクセスできるようにする。



図 2-8. 体育館周辺拡大図（体育館の屋上緑化イメージ）



- テニスコートとサッカー場の面積が確保できる多目的グラウンドは、ゾーン北側のばら園とその東側延長部（約 30,000 m<sup>2</sup>）を公園区域に取り込んで配置する。拡張部は最大 20mの高低差があるため、テニスコート・グラウンド面の配置は部分的な擁壁等で高低差の解消を図る。

図 2-9. テニスコート、多目的グラウンド造成断面図

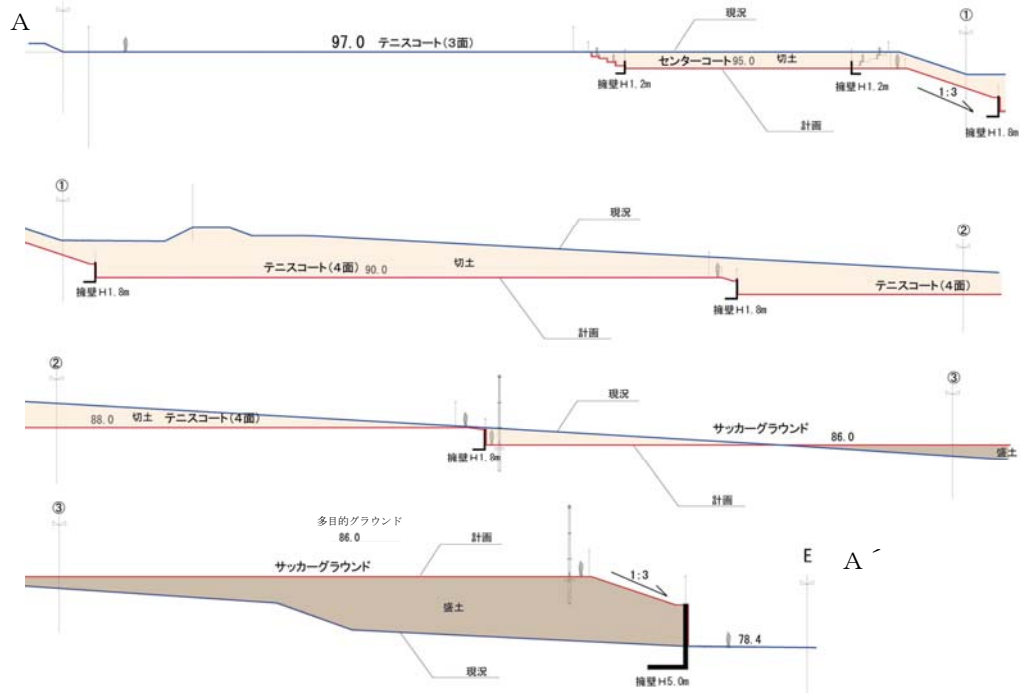
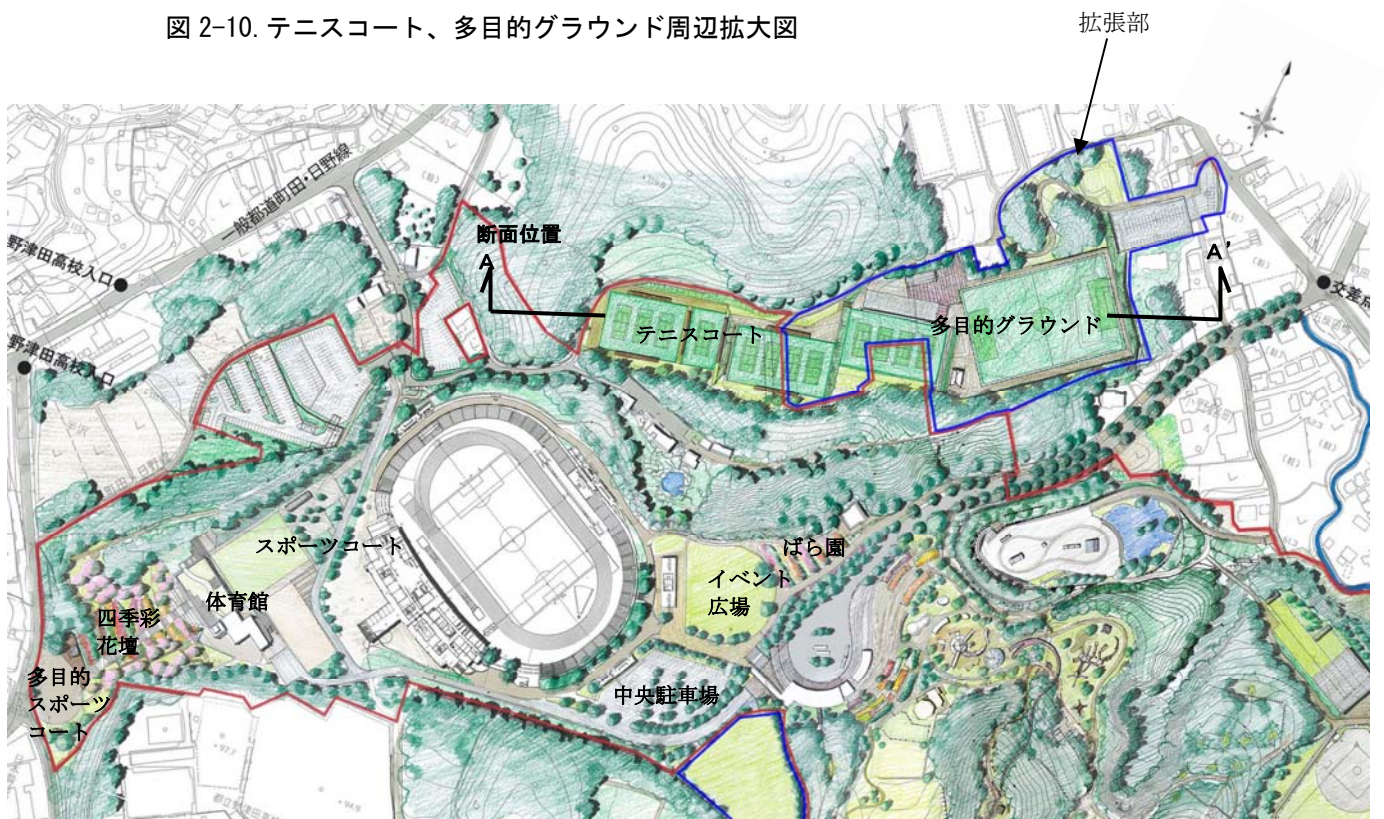


図 2-10. テニスコート、多目的グラウンド周辺拡大図





## (2) 交通アクセス

- 本ゾーンへのアクセスは、通常のパークセンターゾーンからと西口の駐車場を介してアクセスするルートおよび新規に拡張部北側からのルートとする。
- 西駐車場と西第2駐車場が計287台の容量があるため、通常時は西口からのアクセスが主体となり、利用施設の位置によって北口、中央口からのアクセスに分散させるものとする。

## (3) 防災

- 陸上競技場のスタンド棟や体育館は、災害時の一時避難施設や救援物資の備蓄施設としても機能する。特に体育館は前面のスポーツコートなど適度なオープンスペースを伴うため、パークセンターとともに災害支援活動の拠点施設として位置づけられる。

## 3) レクリエーションスポーツゾーン

### (1) 空間構成と施設配置

- 既存の上の原グラウンドは、市民のサッカー練習やスポーツ広場として親しまれているため、観客席やクラブハウスを整備しスポーツ環境を充実させる。また野球場は、夜間照明や管理棟を整備して施設の機能向上を図る
- 雑木林内を巡るマレットゴルフコース、フィールドアーチェリーコースの他、丘陵地の園路を巡るトレイルコースなどゾーンの豊かな自然環境を活かした整備を目指す。
- マレットゴルフは、起伏に富んだ空間や林間なども利用できるように地形や植生を活かしたコース設定とする。またフィールドアーチェリーは、安全性に十分配慮したコース設定を行う必要があるため、一般の散策利用空間と交錯しないよう、散策路等の利用空間と隔離して十分な緩衝帯を確保した林内に設定する。
- 野球場北西側に隣接する疎林と裸地部は、近接する沢の自然に影響がない範囲で面的なスポーツ施設の導入を行い、屋根付運動場と弓道・アーチェリー場を整備する。
- 屋根付運動場は、弓道やアーチェリーの射場となるほか、フットサルや裸足で駆け回れる人工芝の多目的コートとして整備する。また屋根の下は雨天時も含めて、自然観察会やスポーツイベントの会場など、多様な利用・活動空間としてその利用価値は高い。





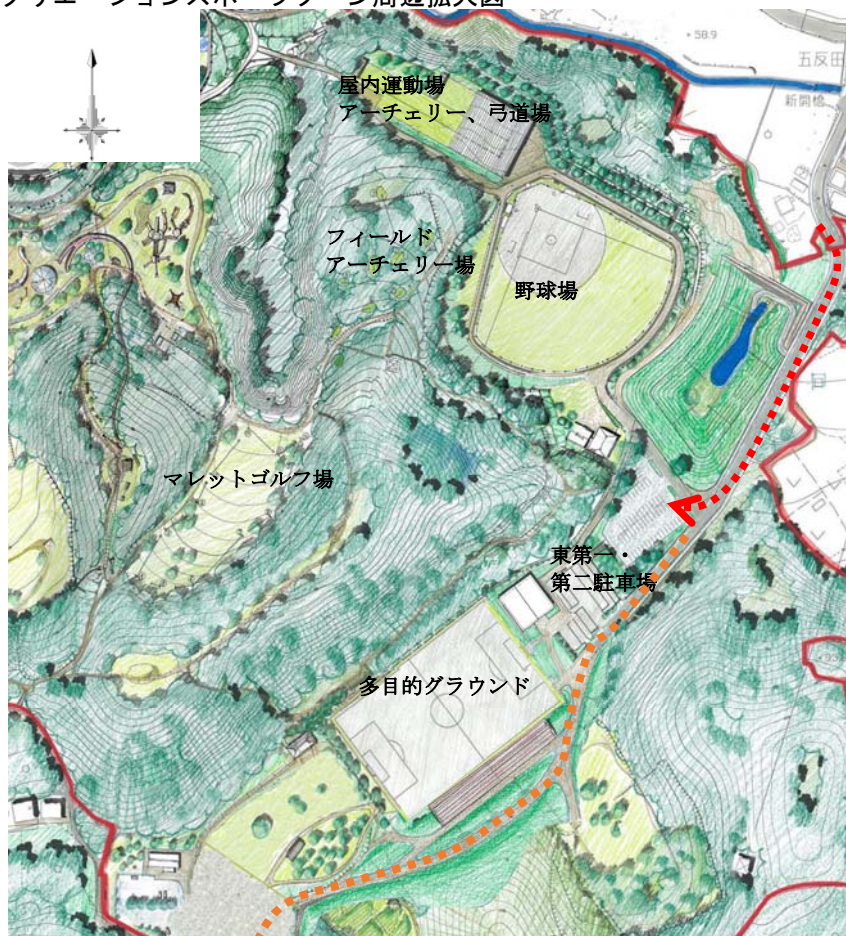
## (2) 交通アクセス・防災計画

- ゾーンへのアクセスは、区域東側の小野路交差点から分岐する既設進入路を利用し、既設駐車場（東第一駐車場、第二駐車場）までをアクセスルートとする。
- Jリーグの試合時や災害時は、上の原グラウンド（多目的グラウンド）までルートを延長して、グラウンドを臨時駐車場や防災活動スペースとして利用する。
- また多目的グラウンドから南入口までのほらっぱ空間も災害時には、通行可能なものとし、区域東側で南北の連絡動線を確保する。

## (3) 環境保全計画

- 本ゾーンは樹林地や草地の緩斜面を利用した整備が基本であり、公園の自然環境を改変することなく保全を前提とした施設の導入（面的な整備ではなく、点と線による利用）を図るものとする。
- マレットゴルフコースやフィールドアーチェリー等のコース設定は、現況地形と樹林等の自然環境そのままに、樹木の間をぬうロープ柵等により誘導する。
- また、利用者の踏圧による雨水流出等に対しては、しがら柵や丸太止め等の流出防止、定期的なコース変更等管理面での対応も必要である。

図 2-11. レクリエーションスポーツゾーン周辺拡大図



#### 4) 人と緑のふれあいゾーン

##### (1) 空間構成と施設配置

- 本ゾーンは、上の原はらっぱの南側端部にネイチャーセンター（野津田自然館＋管理駐車場）を整備して、自然体験・活動の拠点とする。
- ネイチャーセンターは、上の原の自然体験の拠点となる施設とし、季節毎の自然の紹介をセンターのギャラリーで展示したり、自然体験教室でさまざまな自然学習・体験講習などを開催するなど気軽に市民が立ち寄り、野津田の自然を体験できる場所とする。
- 丘陵部は子どもが自然とふれあうための遊び場として整備する。



##### (2) 交通アクセス・防災計画

- ネイチャーセンター周辺は、野津田公園唯一の南側からのアクセスを受けるエントランス空間のため大型車の進入に対応できる転回広場の設置と管理用の駐車スペースを確保する。
- 本ゾーンの南側は、市の中心部からのアクセス道（芝浦街道）とつながるため、災害時には避難ルート・物資供給ルートの受け口としても位置づける。
- パークセンターゾーンとのアクセス路を充実する。
- ゾーン内外の豊富な樹林地は、防災面からも重要な緩衝緑地として活用する。

##### (3) 環境保全計画

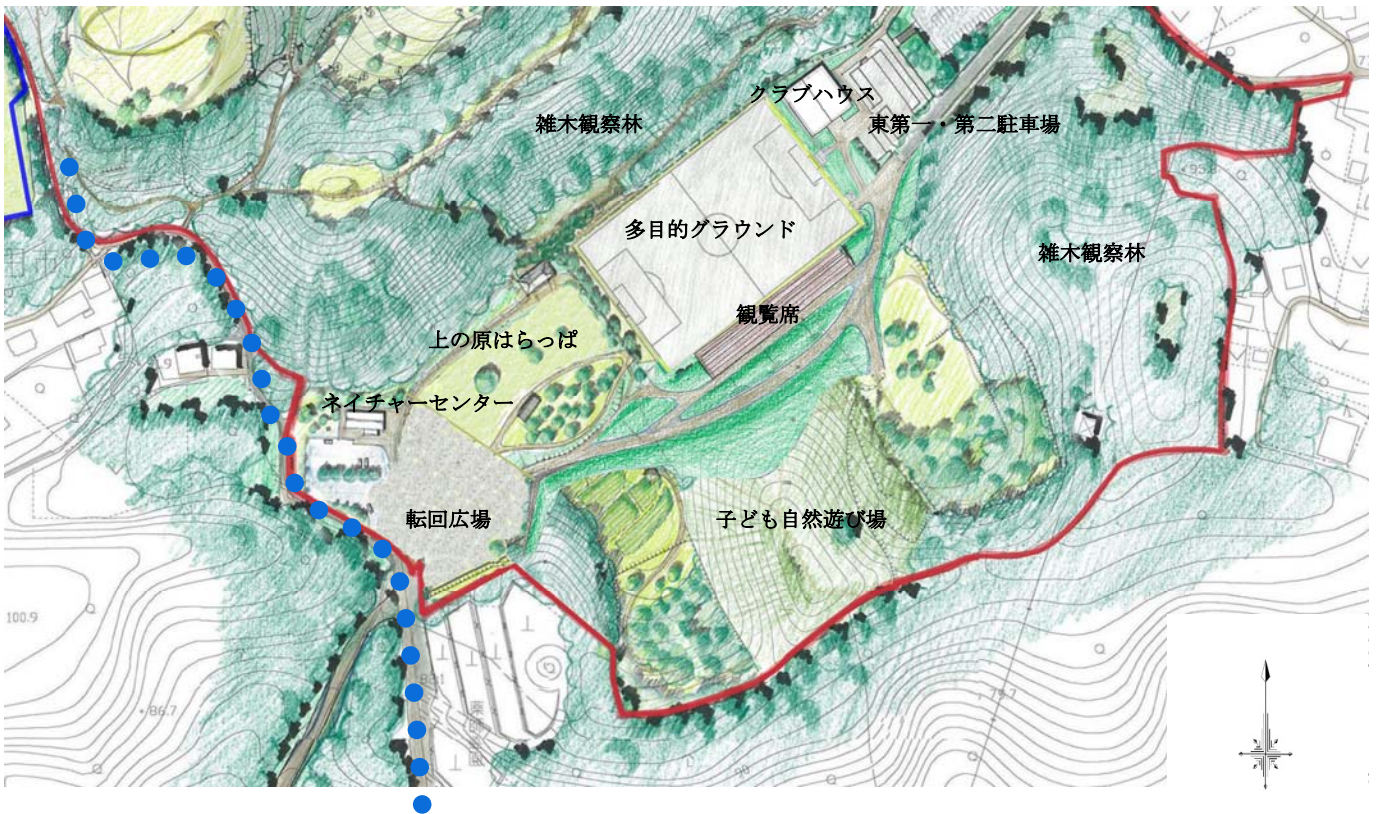
- 上の原はらっぱの北斜面は良好な雑木林が連なり、散策路も整備されているため、これを維持管理しながら雑木観察林として活用する。既存の散策路は間伐材による階段や土留め、手摺や柵など来園者が安全で快適な散策が出来るようにするとともに、定期的な林床管理、樹木の間伐による更新を行う。
- はらっぱ南側の丘陵部は、子どもが自然の中で遊べる施設を整備していく。



■よく管理された里山の雑木林



図 2-12. 人と緑のふれあいゾーン周辺拡大図



## 7. 概算工事費

パークセンターゾーン	名称	規格・形状	数量	単価	金額(千円)	備考	
パークセンターゾーン	エントランスエリア					(千円)	
		パークセンター					
		ウェルカムガーデン	RC平屋分棟	1,500	325,000	487,500	
		民衆園・ばら園	ばら園、ロータリー、斜面緑地共	10,000	20,000	200,000	
		イベント広場	村野常右衛門生家前庭	1,400	16,000	22,400	
		中央第一駐車場	改修	4,300	2,000	8,600	
		エントランス道路再整備	改修	4,000	3,000	12,000	
		多目的広場	330m×20m(歩道含む)	6,600	6,000	39,600	
			臨時駐車場(芝舗装、整地、照明設備他)	10,000	4,000	40,000	
		ファミリーエリア					810,100
			大型複合遊具十ふわふわドーム	1式	70,000,000	70,000	本年度分注2016年度分注2017年度分注2018年度分注2019年度分注
			園地整備	3,800	6,000	22,800	
			ローラー滑り台	1式	80,000,000	80,000	
			園地整備	4,000	3,500	14,000	
			アスレチック遊具	1式	40,000,000	40,000	
		飼育舎他建築	500	300,000	150,000		
		園地	3,500	6,000	21,000		
		芝生園地、野外草	7,600	5,000	38,000		
		スケートパーク	5,000	35,000	175,000		
						610,800	
<b>競技スポーツゾーン</b>							
体育館エリア							
	体育館						
	スポーツコート(ロングパイル人工芝)	45×25(屋上緑化)	1,800	406,000	730,800		
	スポーツコート(全天候)		3,300	20,000	66,000		
	園地、園路	幹線園路、体育館前広場他	1,900	18,000	34,200		
			2,000	12,000	24,000		
						855,000	
<b>斜面緑地エリア</b>							
	四季彩花園		4,800	15,000	72,000		
	多目的スポーツコート		2,000	8,000	16,000		
						88,000	
<b>テニスコートエリア</b>							
	敷地造成	切土(南側斜面林)	10,000	900	9,000		
	上留め擁壁	盛土(最大12m)	130,000	300	39,000		
	砂入り人工芝	H10m L=80m	800	122,000	97,600		
		芝丈25mm	8,500	15,000	127,500	砂入り人工芝 AS、2層	
		H3.0m	750	20,000	15,000		
		テニスコート外用フェンス	24	800,000	19,200		
	夜間照明	テニスコート専用H6.0m、6基/面	1	5,000,000	5,000		
	壁打ちテニス	コンクリートウオール、舗装	1				
サッカー場	サッカー場	ロングパイル人工芝	8,000	20,000	160,000		
	防球ネット	H=8.0m、鋼管柱	360	300,000	108,000		
	夜間照明	H=12.0m、鋼管柱	8	4,000,000	32,000		
	その他園路広場整備		3,000	10,000	30,000		
						642,300	
小野路屋敷エリア	園地改修整備	園路改修、植栽整理他	6,600	4,500	29,700		
						29,700	
<b>レクリエーションスポーツゾーン</b>							
アーチェリー場エリア	屋根付運動場	鉄骨デック構造	1,250	115,000	143,750		
	的場	倉庫付き	200	115,000	23,000		
	アーチェリー(弓道)場	30m+90mコース(砂入り人工芝)	2,500	15,000	37,500		
	防矢ネット		300	250,000	75,000		
	夜間照明	LED	6	1,500,000	9,000		
	観覧席増設改修	50m×5段	1	5,000,000	5,000		
多目的グラウンドエリア	既設球場への追加施設	スタンド、防球ネット改修、周辺園地整備	1	50,000,000	50,000		
野球場エリア	駐車場園路整備	東第1、第2駐車場	3,500	150,000	525,000		
	夜間照明		6	25,000,000	150,000		
フイールドアーチェリー、マレットゴルフエリア	フイールドアーチェリーコース	林床整理、コース設定	3,200	1,200	3,840		
	マレットゴルフコース	林床整理、コース設定	4,000	2,000	8,000		
	トレッキングコース	展望広場、散策園路800m他	4,600	1,800	8,280		
	キュービクル他電気設備		1	30,000,000	30,000		
	受水槽他給水設備		1	25,000,000	25,000		
						1,093,370	
<b>人と緑のふれあいゾーン</b>							
南入口エリア	ネイチャャーセンター						
	入口広場、駐車場	RC平屋	130	230,000	34,500		
	転回広場	舗装面積2000㎡、敷地造成・擁壁(平均約H5.0m×L80m)含む	3,500	8,000	28,000		
原っぱエリア	子どもの遊び場		1	25,000,000	25,000		
	原っぱ	現状草地整理、外柵、園路	1	10,000,000	10,000		
	果樹園	樹木畑、作業小屋	1,800	3,000	5,400		
	南斜面畑	園路、作業小屋	1,200	3,500	4,200		
樹林地保全有成エリア	北側斜面林	園路整備、林床整理、枯れ木・外実種伐採、樹林密度調整、落葉広葉樹植栽等	1,800	1,200	2,160		
			18,000	600	10,800		
						120,060	
<b>その他既存樹林保全ゾーン</b>							
樹林保全ゾーン	園路整備、林床整理、枯れ木伐採等						
			70,000	300	21,000		
						21,000	
	直接工事費合計				4,270,330		
	諸経費				2,562,198		
	工事費計				6,832,528		
	消費税				546,602		
工事費総計					7,379,130		